

新除草・調節剤

ニトラリン除草剤

(試験名: SD-11831)

(取扱メーカー) シェル化学株式会社

対象作物: かんしょ

性状・作用特性: 本剤は有効成分 4-(メチルスルフォニル)-2,6-ジニトロN,N-ジプロピルアニリン(一般名 ニトラリン) 50.0%を含む淡黄色水和剤である。

本剤は根系接触および吸収毒作用を持つ非選択性除草剤である。既に発生している雑草は、本剤に対して高い抵抗性を示すので、雑草発生前に処理しておく必要がある。

土壤中の移動性は、3 cm 前後(3時間 30 mm 降雨)でPOPより大きく中程度であるが、作物に対する影響はかんしょ挿苗直後土壌全面処理で地上部・地下部とも異常は認められない。

残効性は40~50日程度である。

すでにかんしょにおいても、定植直後土壌全面処理で高い除草効果と作物に対する安全性が確認されている。また、きゅうり、とまと、たまねぎ、いちご、レタスに対する適用拡大試験が行なわれる予定である。

毒性: 人畜および水産動植物に対する毒性は、通常の使用方法では問題はない。(急性経口毒性: マウス $LD_{50} > 10,000 \text{ mg/Kg}$, 魚毒性は、コイト Lm = 44.7 ppm 48時間である。

使用方法: 挿苗直後(雑草発生前)に、10アール当たり製品200~300gを土壌全面処理する。

使用上の注意: 覆土深をなるべく深くし、土壌混和はさける。

編集後記

梅花にそそぐ月の光にもようやく春のきざしを感じさせる頃となった。

俳句や詩に表現される月の光は、何となく寒々とした表現に多く用いられている。近頃では、農業経営の近代化に伴ない、月の光を背に受けて夜遅くまで田畑で働く農民の姿をみる事ができなくなった。科学の進歩により、神秘の世界であった月にも人類が到達し、文学の世界からは月のイメージは追放されざるを得なくなってきた。旧暦の意味も、今後はだんだんうすれてゆくことであろう。

さて、旧暦で雨水というところ、新暦では2月19日に相当するが、この頃になるとようやく雪が陽光でとけはじめるようになり、やがて雪だけ

水が広野をうるおすということから、この表現が用いられたものと思われる。

さて、これから、そろそろ農業生産活動がはじまるわけであるが、そろそろその準備をしなければならぬまい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東話 東京(03)502-4188(代)

昭和46年2月発行

第4巻第11号

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番